

議事録

案 件：第7回佐鳴湖地域協議会

年月日：平成30年6月27日9:30～11:10

会場：浜松総合庁舎1階大会議室

【参加者】

委員 31名

行政関係者（委員以外）27名

一般傍聴者 3名

記者 1名

1 開会

【事務局長あいさつ】

- ・ 会に先立ち、浜松土木事務所長よりご挨拶申し上げる。

【浜松土木事務所長あいさつ】

- ・ 日頃より委員の皆様には佐鳴湖の浄化に向けた取組に、ご理解とご支援をいただき、事務局のある浜松市と静岡県を代表して厚くお礼申し上げます。また、本日はお忙しい中、当地域協議会にご出席いただき誠にありがとうございます。
- ・ 佐鳴湖の浄化対策については、平成27年3月に策定された「みんなでつくる佐鳴湖 佐鳴湖水環境向上行動計画」に基づいて、目標年度の平成31年度に向けて、地域の皆様方のご協力をいただきながら、市、県ともに取り組んでいるところである。今後、水質をより良くすることはもちろんだが、それだけにとらわれず、自然、生物、周辺環境も含め、総合的に佐鳴湖の魅力を高めていくためには、一層、委員の皆様をはじめ、地域の皆様との連携が不可欠であると考えている。今後とも、一層のご支援ご協力をお願いします。
- ・ 本日は委員の皆様方、それぞれの立場から忌憚のない意見を頂きますようお願い申し上げ、簡単だが開会の挨拶とさせていただきます。

【協議内容】

（事務局（浜松土木））

- ・ はじめに、お手元に配布させていただきました資料のご確認をお願いします。お手元の次第の裏面に、本日の配布資料の一覧を掲載した。不足等がありましたら、会の途中でも結構ですので、事務局までお申し付けください。
- ・ 協議会を傍聴される方は、傍聴要領に従ってください。
- ・ 委員の皆様方のご紹介は、時間の都合により省略させていただきます。お手元の座席表にてご確認ください。
- ・ 本日は佐鳴湖をきれいにする会顧問の鈴木委員、浜松商工会議所理事・総務企画部長湯口委員、静岡県経済産業部農業局畜産振興課技監吉田委員の3名については、欠席との連絡を受

けておりますので、ご承知おきください。

- ・ 当協議会は、全 34 名の委員で構成されている。本日の出席者は代理を含め 31 名で、1/2 以上の委員に出席いただいているため、協議会規約第 5 条第 2 項の規定により本日の協議会が成立していることをご報告する。
- ・ これ以降については議事次第に沿って進める。議長は、協議会規約第 4 条第 4 項により会長が務めることになっているため、会長お願いいたします。

(会長)

- ・ 今日はお忙しいところご出席いただきありがとうございます。年 2 回の総会のため、是非積極的にご意見をいただけたら嬉しく思う。最後までよろしく申し上げます。
- ・ お手元の第 7 回佐鳴湖地域協議会次第をご覧いただきたい。今日はこの 5 つの議題を用意している。
- ・ それでは、議事の 1、規約及び要領等について事務局より説明をお願いします。

2 議事

(1) 規約及び要領等について <報告事項>

[事務局から、資料 1 により説明]

(会長)

- ・ ただいま、事務局から規約及び要領等について説明があった。これについて、ご意見やご質問のある方はお願いします。よろしいでしょうか。
- ・ それでは新しい委員の皆様よろしく申し上げます。
- ・ それでは、議事 2、平成 29 年度地域協議会予算収支決算について事務局から説明をお願いします。

(2) 平成 29 年度 地域協議会予算収支決算 <議決事項>

[事務局から、資料 2、3、4 により説明]

(会長)

- ・ ありがとうございます。皆様から、ご意見やご質問はございますか。

(委員)

- ・ 補足の説明をする。流域河川の窒素とリンの状況だが、俗に T-N (全窒素) の数値は 1 を超えると十分に富栄養化、T-P (全リン) は 0.1 を超えると十分に富栄養化なので、これは流域全体どこを見ても、ほとんど富栄養化という状況である。そのため、恐らく COD をものすごく下げるということはできない。
- ・ 魚類調査については、先日事務局にこれまでの結果の総まとめのデータをお渡しした。以前は 40 種類、20 種類といった魚が採れていたが、最近は数種類である。量もバケツ 1 杯である。今後、入野漁協と相談しながら、どう改善していくのか、何が問題なのか考えながら進める予定だが、数値だけから見ると非常に深刻な状況である。私がフィールドで見ていると、ボラは減っているように感じない。先月のニゴイの産卵状況も、河川に相当数が遡上しているため、いないことはない。ただ、ハゼやウナギを釣っている人の話からすると、減っているようである。魚の状況は予断を許さないと考えている。

(会長)

- ・ 魚の減少として考えうる原因はどのようなものか。

(委員)

- ・ 研究者の間では色々なことが言われている。1つは栄養塩が減ってエサが減り、水産資源が減るということだが、それは佐鳴湖には当てはまらない。瀬戸内海や諏訪湖で言われている。それも研究者の間で賛否両論がある。
- ・ 2つ目は農薬で、1つは除草剤、1つは殺虫剤である。現在の殺虫剤はネオニコチノイド系と言って、レイチェル・カーソンが「沈黙の春」で警告した時代の殺虫剤はあらゆる生物に毒だったが、現在の殺虫剤は昆虫だけを叩くものを目指している。人間や犬、猫にはダメージが少なくなっているために、心配せずに使ってしまうきらいがある。ヨーロッパ等で畑にまく場合は、ただちに水域に入らないが、日本では、水田にまくことにより短期間に集中的に川や湖に入る。昆虫をたたくということは、エビ・カニ・ミジンコ等もダメージを受けるだろうと言われている。私もそれを疑っている。
- ・ 3つ目に、マイクロプラスチックである。海域で非常に問題になっており、レジ袋やペットボトルなどが水の中に入り、紫外線やオゾンの効果を受けて分解し、微細な粒子になる。プランクトンがそれを摂取し、魚に蓄積している。プラスチックは、PCBやダイオキシンのような脂溶性の物質、油と親和性の高い物質を濃縮し、そのプラスチックを生物が取り込むことによりダメージを受けているという話もある。東京湾のイワシからは、ほぼ確実にプラスチックが出てくると言われている。沿岸漁業への影響を考えると、シラスは必ず摂取しているはずであり、我々がシラスをたくさん食べると、プラスチックを食べているのかもしれない、しっぺ返しを受けているのかもしれないということが最近のトピックである。ヨーロッパ等で、プラスチックストローを追放しようとか、レジ袋を完全にやめようと言っているのはそのためである。海洋に膨大なプラスチックが入っていき、もうしばらくすると、海に棲む魚の重さとプラスチックの重さが均衡すると言われている。佐鳴湖には直接関係がないかもしれないが、佐鳴湖に入っていないことはないはずである。

(会長)

- ・ ありがとうございます。他にはいかがでしょうか。

(委員)

- ・ 佐鳴湖の色々なところで水質調査というのはよいが、佐鳴湖自体が淀んでいるというか、水の出入りがほとんどなく、汚染物質がどんどん濃縮されていくような気がする。汚染物質が出ていくような、上手い方法はないのか。

(会長)

- ・ 元々、潮の満ち引きで佐鳴湖が作られてきたので、出るだけということが出来るのでしょうか。

(委員)

- ・ 太平洋から拡散して、また入ってくればきれいになると思うが。

(会長)

- ・ これについて、ご存知の方いらっしゃいますか。これに関連するご質問ですか。

(委員)

- ・ 私も同じ質問である。自然浄化ができない閉鎖水域の中で、水質調査等やっているが、根本的な対策として取り得るものとしてどのようなものがあるか。改善が見られない中で、正直このままこの形を続けていくのがよいのか。掘り下げて考えなければ、将来が懸念される。

(委員)

- ・ 平成2年から12年まで、佐鳴湖の浚渫を行った。この時、底泥で湖岸をたくさん埋めて、保水力がなくなった。私が52年前に東岸に家を建てて家内に貸しボートをやらせた時には、台風で浜松に大雨が降っても5～6時間経たないと満水にならなかった。堤防を越して、入野の町に水が流れ込むことはなかった。浚渫した底泥がほしい、埋め立てに使いたいというところがないため苦労したという話も聞いたが、底泥で隅を埋めてヨシを植えたり、南岸は駐車場になっている。それで、余計に早いと思うが、最近では1時間で満水になる。夜中に台風が通ると、私や家族は船着き場で様子を見ている。その分、新川排水路で排水を良くした。昔は浜名湖と佐鳴湖の落差は1mあったと聞いているが、新川放水路から出ていくので、ゼロになっているそうだ。調査機関の人達が、夜11時半に拓希橋からブイを投げると、引き潮で流れて、志都呂のイオンの南側のとびうお大橋で止まり、20分滞留して、満潮で佐鳴湖まで帰ってきたという新聞記事を持っているが、そういうことは変わらないと思う。佐鳴湖の水位を高くすることを考えないといけない。私は専門家でもないし、学もないので、そういう調査をしたことがない。あくまで皆さんの報告や新聞報道を見ているが、落差が0mということである。
- ・ この52年間、佐鳴湖の湖水の色を見てきたが、数年前までは、暖くなる4月上旬から10月下旬までは緑色で、緑藻という植物プランクトンの色だった。11月頃、北西の風、入野の地元の年寄りが伊吹おろしと呼ぶ風が吹き始める頃から、翌年3月下旬頃までは、ケイ藻という植物性のプランクトンが増えて茶色になる。緑色になっても、茶色になっても、透明度には変わりがない。毎月、漁業組合は、浜松市の事業で、水質調査の水を採水している。それが、ここ数年は非常にひどい。佐鳴湖をきれいにする会でも申し上げたため、早速関東農政局が砂山に事務所を設置し、農業用水や工業用水の設備点検補修を始めたが、水質について立派な専門家が科学的に調査するのは違って、私は佐鳴湖の水に親しんで、色を見て、風向きや天気を見て、漁をしている。それも、ウナギを大量に取ってはいけなないので、つぼ漁という体力と時間をかけて一番きつい漁を行っている。過去の正常な湖水の色の変化があったころは、実に豊漁に恵まれ、1キロ千円や千五百円の時、毎週5、6万円の収入があった。最近になって、特に今年は、漁期に入る前の3月、4月、5月いっぱい、泥水で真黄色になっている。つぼを上げると、泥水が舞い上がって、ウナギは入っていない。6月上旬から中旬は、驚くほどきれいな緑色の緑藻になった。6月中旬からは、また泥水になった。ぜひ佐鳴湖に来て、見ていただきたい。このような状況では、佐鳴湖の魚は皆出ていってしまう。魚類調査のお話があったが、定置網を張っても、ボラも入らない。ボラは北岸の浚渫しなかったところに集まっている。水質というよりも、天竜川の山崩れの泥水を組み上げて、農家が田畑で使わないため、不必要になった水を佐鳴湖と庄内川に入れている。このような悪循環を放置しておいて、佐鳴湖の水がきれいになる、昔のような豊富な魚が生息出来るような環境には戻らないと思う。

(会長)

- ・ 貴重な情報をありがとうございます。

(委員)

- ・ 佐鳴湖は、浜名湖と通じているため、今切口からかなりの量の塩水が入っている。潮干狩りと言うのは、春の潮でやるので潮干狩りになる。佐鳴湖にも、20cmくらいはゆうに浜名湖の水が入っている。今切口では、台風になるとうねりが出るので、そこで止まってしまい、庄内湾の泥水が上がってきて佐鳴湖に入る。私はそこまでは覚えている。蛤にしても、雄踏の一部には蛤があり、浜砂がきれいだから生きていけるが、今は太平洋にある。漁協の話もわかるが、ウナギは佐鳴湖以外の神田川や篠原川などの河川でも釣れている。よくやっている人がいる。
- ・ 堀留運河は、私の家の東側が昔の船溜まりであって、私の家のすぐ北側が起点で、そこから船が出て、県居小学校の3分の1が堀留運河の一部である。呉竹荘の方から水が落ちてきて、南部土木事務所に掃除を依頼しているが、かなりの汚い水が出るので、いつも草を取ってくれなどと届けを出す。そこから下がった県居小学校のタイヤ館のあるところには、私の小さい頃、船溜まりがあった。皆そこで泳いだりした。また、東洋紡があり、そのプールで泳いで遊んだが、それが堀留運河の起点だと思う。成子町の福祉会館のところに寺があった。そこから排水が出て、東砂町を通過して、東伊場に出ていく。今は福祉会館を作ったので下水はない。下水があったところは、宅地になっている。問題は、堀留運河は東伊場の呉竹荘の下を起点に、今の佐鳴湖の入口のところ、ゴルフ場のところまでとなっている。5～6年前から堀留川を拡幅するというので、昨年からの測量が始まったようだ。それから完成まで30年掛かるというので、ここにいる人は完成を見ないかもしれないが、起点についても考えないといけない。

(会長)

- ・ ありがとうございます。ここで、環境の問題や、CODに関わる問題以外の話も出ているので、事務局で何か掴んでいる情報等がありましたら付け加えていただけますか。

(事務局（浜松土木）)

- ・ 様々なご意見をいただきありがとうございます。佐鳴湖と浜名湖の関係性、塩分の流入は把握している。高低差が1mぐらいしかないことから、塩分が入ってくるが、ある程度の水も上流から下流に流れている状況もあるので、ご指摘いただいた水質や生物の状況について、今後の取組において把握したいと考える。
- ・ 佐鳴湖流域水質調査結果を見ていただくと、CODは平成21年度ぐらいから着実に減少している。全体としては過去に比べると水質は改善傾向にあるが、若干まだ高い状況ではあるので、引き続き流域対策を行っていきたい。

(会長)

- ・ ありがとうございます。新たな問題も見られるのでぜひ刮目していただきたい。

(委員)

- ・ 先程の資料5の項目別の年度ごとの計測値の数値が間違っていると思う。CODの県の環境基準は、湖沼Bで5であることから、この数値は違うと思う。BODやT-Nも高いと思うので、ご確認ください。

(事務局 (浜松土木))

- ・ 調査地点 1 地点の数値ではなく、地点合計の値となっている。

(委員)

- ・ 環境では合計という示し方はあまりしないので、もし出すのであれば平均していただきたい。

(事務局 (浜松土木))

- ・ 記載方法は、ご指摘を踏まえて改善する。

(委員)

- ・ 合計すると単位が違う。濃度ではなく流量を掛けた総量ではないですか。以前、指摘したように思うが。

(会長)

- ・ これを頑張るためにやっているのですが、ぜひ的確にお願いします。長期的に下がってきていることは確認しているのですが、いくつか複合的な問題も出ていることから、引き続きよろしくお願いします。

(委員)

- ・ 話を戻すようなことになるが、佐鳴湖に流入する段子川を毎日のように眺めている。浚渫工事をやって3年目になる朝日橋の北側は元通りになっている。昨年やっていただいた下流側も草が生えてきている。ということは、先程おっしゃっていた黄色い泥が上流から流れ込んでいる。また、時間帯によって、この川はどっちに水が流れているんだろうというくらい佐鳴湖から上流に流れていく状況が見られる。棲んでいる魚は、佐鳴湖にはいないかもしれないが、段子川にはコイがたくさんいる。川の流れが順調にっていないことを日頃感じている。

(会長)

- ・ 他に、ご意見、ご報告ございませんでしょうか。

(委員)

- ・ 水の交換の話ですが、私が度々申し上げているが、流域の開発、かなり木を切って、森を減らして住宅開発をした。この方向は、絶対によい効果は生まないので、市全体としてやっていることが佐鳴湖をきれいにする方向に行っていない。この地域協議会の範疇を超えと思うが、全体の流れとしては、佐鳴湖の水に対してマイナスの方向に行っていると言わざるを得ない。道路の側溝なども、外れにくいスリット式の側溝になっていて、底に溜まっている土砂が大雨の時に一挙に流れ下るため、川が濁るということもあるのではないかと。段子川が大雨で急激に水が増えるのは異常で、佐鳴湖の水質の改善のキーである。

(会長)

- ・ 水質を見ているだけでは出来ないことが多く出てきて、それはいろいろな課にまたがるような件ということでしょうか。次の計画の策定に向かって、新たな対策について、この地域協議会が中心となって考えていくことになる。こういった意見の積み重ねを、ぜひ計画に活かしたいと思うので、事務局だけでなく、皆様のご協力をお願いします。
- ・ それでは、事業報告について、他にございますか。よろしいでしょうか。まだまだ課題が多いことを理解できたと思う。収支計算書、事業報告についてご承認いただけますでしょうか。

(「異議なし」との声あり)

(会長)

- ・ ありがとうございます。それでは、議事3に移りたいと思います。平成30年度地域協議会の予算編成及び事業計画について、事務局から説明をお願いします。

(3) 平成30年度 地域協議会予算編成及び事業計画 <報告事項>

[事務局から、資料5、6により説明]

(会長)

- ・ ありがとうございます。それでは平成30年度の予算及び計画についてご意見、ご質問はございますか。
- ・ 専門委員会に次の計画について意見をいただくのはありがたいが、どのような陣容になりますか。

(事務局 (浜松土木))

- ・ 佐鳴湖浄化対策専門委員会は、現計画についてもご意見をいただいている。河川工学、物質の循環、下水道関係の浄化の専門家等にご意見をいただき、まずは現計画をしっかりと評価したい。その評価を踏まえて、どういった計画にしていくべきか、ご意見をいただきたいと思う。必要な調査があれば、今年度、来年度に行いたい。

(会長)

- ・ 専門委員会での報告を地域協議会にも報告いただいたり、この会議の意見を聞いていただける場を作っていただけると、双方向性が出て、より現実的なものになると思うので、ぜひお願いします。

(委員)

- ・ 先程、重要な指摘があったと思う。宅地開発や側溝の蓋であるとか、矛盾するような政策が行われるといったことがあったが、ピント合わせするような組織といったものはありますか。

(会長)

- ・ 非常に重要かつ難しいテーマであるが、何か可能性があれば教えていただけますか。

(事務局 (浜松土木))

- ・ 佐鳴湖地域協議会の行動計画策定においては、県や市の関係課が一同に集ったプロジェクト会議において協議し、森林の伐採の抑制等を目標に掲げているところもある。そういった点からも水質の改善を図っている。
- ・ 後ほどご説明するが、A3サイズで施策の一覧表があるが、実施主体には県や市の関連部局を位置づけており、情報提供しながら進捗管理を行っている。次の計画でどのようにブラッシュアップしていくのかは、皆様のご意見等踏まえながら進めたい。

(会長)

- ・ 調整は行われているが、効果を上げるためには、さらにどのような調整が必要なのか、また重点目標を設置というか、見える化が必要なのかもかもしれない。

(委員)

- ・ 私は、調整されていると思わないが、事務局はそうのように答えざるを得ないと思う。例えば、

宅地開発をするにあたり申請が出た場合、行政は違法でなければ認可しなければいけないという流れになっている。それを阻止するには、例えば市がその土地を取得するとか、もっと大きな力が働かないと出来ない。道路にしても、河川にしても、優先度がある。河川は、災害防止が一番優先で、水質は下の方である。それを勘案して施策を実行しているの、上の方に来ないと出来ない話である。現実の行政システムの中では、特別なシステムを作らないと動かないと思う。

(会長)

- ・ 私達の暮らし方そのものに原因の一部があって、どの部だけが悪いということではなく、深いテーマの話になっているが、それで終わってしまっただけいけないので、何か水質以外で起きている問題を重点化して、原因の探求など影響が与えられる部局があれば参入していただけるような、積極的な調整に入っていただければと思う。

(委員)

- ・ 今日初めて参加させていただいた。今回で7回目ということだが、1回目から何も進んでいないという印象を受けた。数年前に、佐鳴湖をよく歩いていた。今も時々歩くが、何年か前に、西岸の大平台の下の斜面の木を伐採して、渡り鳥も来れないような伐採の仕方をした。どうしてこのような伐採の仕方をするのか。佐鳴湖の公園は、都市型の公園にすると聞いたが、どういう定義で行っているのか。何も進んでいないが、どんどん木を切って、ミサゴ等の鳥が見られないような環境を作るという方向に進んでいるのか、それが都市型というのかをお聞きしたい。

(委員)

- ・ 都市公園という位置づけはあるが、都市型公園という言葉は、私の知る限りでは聞いたことがない。樹木の伐採等については、様々なご意見をいただいている。現場に行くと、伐採した方がいいところや、ウォーキングコースの狭くなっているところを広げるといった観点では、過去にも伐採をしているし、今年度も計画している。今も、多くの市民の憩いの場としてご利用いただいている。より親しみやすく、利用しやすい公園にしていきたいということは一貫して変わっていない。

(委員)

- ・ それはよいが、自然が無くなっていくということである。そのことによって水が汚れる。佐鳴湖は、湖面は県であるが、周りは市であるので、そこをうまくやっていると何も進まないと思う。より自然を増やす方策でない。

(会長)

- ・ ありがとうございます。平成30年度の事業について、他にご意見はございますか。

(委員)

- ・ 外来種についてですが、昆虫食倶楽部で、昨年度、アカミミガメを274個体捕獲し、環境政策課にお渡しして駆除した。今年、現在で150個体ほど捕獲しているが、いくつか問題がある。環境政策課が引き取って処分してくれるが、我々の活動が土日で、環境政策課が平日であるため、カメの受け渡しに苦慮している。北岸管理棟に、昆虫食倶楽部がお金を出して冷凍庫を買い、市が電気料金を払って、一旦貯留して受け渡しする計画であるが、市民協働のボランティア活動であるため、冷凍庫を地域協議会で購入することはできないでしょうか。

佐鳴湖助成金では購入できない。できればお願いしたい。

(会長)

- ・ 肉体労働をしていただいている、ありがとうございます。予算は予定であって、毎年数値は違ってくるため、頑張れば調整することはできますか。可能かどうか、この場で明言できないまでも、検討いただくということによろしいですか。この予算を通すにあたって、先程のご意見を反映できるか検討することを条件に決議を取りたいと思う。
- ・ 他によろしいでしょうか。事業内容そのものは、昨年度を踏襲しているが、いくつか次の計画に向けての調査という新しいこともあると思う。また、委員のご意見や、危機感を感じる住民の方々の論点をぜひ事業に活かしていただきたい。それでは、この予算と事業計画をご承認いただけますでしょうか。

(「異議なし」との声あり)

(会長)

- ・ ありがとうございます。それでは、議事4、県、市による平成29年度事業実績及び平成30年度事業計画について、事務局から説明をお願いします。

(4) 県、市による平成29年度事業実績及び平成30年度事業計画 <情報提供>

[事務局から、資料7により説明]

(会長)

- ・ ありがとうございます。それでは県、市による平成29年度事業実績及び平成30年度事業計画についてご意見、ご質問はございますか。

(委員)

- ・ 外来種については、昨年くらいからヌートリアが目撃されている。ヌートリアを加えた方がよいと思う。資料の「クリハラリス」のスが抜けている。
- ・ 昨今、クサガメとコイが外来種として扱われるようになり、アカミミガメの駆除の活動では、クサガメの問題で悩んでいる。これは、様々なところと合意を得なければいけない話だと思う。

(会長)

- ・ ヌートリアとはどういうものですか。

(委員)

- ・ ビーバーの尻尾を細くしたような動物で、食用や毛皮を取るため、戦中戦後に日本に導入され、兵庫県辺りから広がった。湖西ではかなり前に生息が確認されていたが、佐鳴湖でも目撃されている。私も見た。

(会長)

- ・ 他にはいかがでしょうか。

(委員)

- ・ 事業計画で、出前講座の話題が出たが、佐鳴湖周辺にお住まいの方と、我々のような段子川上流の離れた地域では、認識に温度差がある。悪い言い方をすれば、無関心の人が多いと言

える。私も昨年、自宅に雨水浸透ますを3基設置したが、やはり出前講座で自治会、小中学校等に積極的に啓発することが大事だと思う。誠に申し訳ないが、パンフレットといった文字で示しても読まない。写真等だけ見るような感じである。それよりも、直接語りかけて意識を啓発することが、特にこれからの時代を生きていく子供たちには大事である。そういうところに、積極的にお金や人を掛けていただきたい。

(会長)

- ・ ありがとうございます。上流地域のご理解、ご支援は大きなテーマだと思う。よろしく願います。他にはいかがでしょうか。よろしいですか。これは報告事項ですが、事務局は出された意見について、ご検討ください。
- ・ では、議事の5番、その他報告事項について、事務局から説明をお願いします。

(4) その他報告事項 <報告事項>

(委員)

- ・ 報告いただいたことは、配布資料に載っていますか。

(事務局 (浜松市))

- ・ 誠に申し訳ございませんが、本日の配布資料には載せていない。速報値を口頭でご報告させていただいたので、ご理解いただきたい。次回の協議会は、資料で報告したい。

(会長)

- ・ 資料8に、ほぼ同じ数字が書かれている。

(事務局 (浜松土木))

- ・ そのことについて、事務局から説明する。資料8をご覧ください。先程から、委員の皆様にご意見をいただいているが、現計画が来年度に終了するため、今年度から計画の評価を行い、流域にお住まいの皆様や関係団体と合意形成を図りながら、平成32年度以降の取組について検討したい。また、現状と課題として、現計画に位置づけた施策については、関係機関で情報共有を図りながら、また地域協議会に報告しながら進めており、その結果、取組のほとんどが実施され、下水道整備率等の一部の目標が未達成ではあるが、概ね計画どおりに進捗している。CODは、平成23年度から27年度は水質目標8mg/Lを達成しているが、平成28年度と29年度は若干上回っている。透明度はこれまで達成できなかったが、平成29年度の速報値では、透明度0.5mで目標を達成した。自然生物や周辺環境についても、透明度、水辺の植生、利用率は目標が未達成だが、その他の項目については概ね達成していると評価している。

このことから、今後の取組内容や体制について、皆様のご意見を踏まえて検討したい。また、専門家の意見も踏まえ、これまでの取組に対する評価や水質の改善効果等を検証し、今後の水質浄化対策の必要性を検討したい。次の地域協議会では、平成32年度以降の取組方針をお諮りし、来年度は具体的な取組を検討し、地域協議会のご意見を踏まえてまとめたい。本日、地元の方々のご意見、最近の状況などを伺うと、現計画とのギャップが少し出ているように感じた。その点も踏まえて、今後進めてまいりたい。ご協力、ご指導をお願いしたい。

(会長)

- ・ ありがとうございます。平成 32 年度以降の計画の進め方について、ご意見、ご質問はございますか。

(委員)

- ・ 気になることが 2 つある。1 つは、西岸の道路の運転マナーが非常に悪く、路面が壊れていることである。路面は直せばよいが、毎晩スマホを見ながらのろのろ運転をしている車が複数見られる。要するに、いい大人がポケモン Go をやっている。非常に危ない。
もう 1 つは、喫煙所を指定してはどうか。特に林内は禁煙にすべきである。公園内はバーベキューが禁止されているので、火を使ってはいけないはずである。指定した安全な場所でタバコを吸うように、長期的に計画してはいかがかと思う。

(会長)

- ・ ありがとうございます。今日、会議の場に参加して思ったが、環境省や国土交通省が定める基準を標準化するのは当然だということはあるつつも、次の計画に関わる専門委員が、フィールドに行かずに話をして決めるという点について不安が残る。様々なお住いの方の目を見た不安感は、重要な意味合いがある。今発生しつつあり、不安が強く感じられることは、専門委員の方々が行って何か調べるでもよいし、地域の方々が専門委員に確認に行くような、フォローと言いますか、情報を修正しながら専門委員を活かすということが重要だと強く思った。必要であれば予算化していただき、委員の皆さんも参加することができて、意見を正式なかたちで述べ、計画に反映できる道筋を作らないと、優秀な学者の中央からの意見で基準が決まっていくことは、地域の関わりがわからないまますれ違っていくことは避ける方法があるよいと思った。

(事務局 (浜松土木))

- ・ ありがとうございます。これまでも専門委員の方には現場を見ていただいたり、助言をいただいているが、今後、専門家の方や地域協議会の皆様にも現場を見ていただきつつご意見をいただくような場づくりも検討したい。

(会長)

- ・ そうですね。今日、不安を訴えていた地区は優先的に見ていただくとか、専門家の方のご意見をいただく時は地元の方にも入っていただくなど、1 年を通してどうなのか、また 10 年間見てきてどうなのかといった実感を伝えていただく工夫をお願いしたい。

(委員)

- ・ 佐鳴湖のソウギョが漕艇をひっくり返して話題になったが、今も生きていますか。

(委員)

- ・ 中国由来の外来魚は、ソウギョとハクレンの 2 種いるが、ジャンプして事故を起こすのはハクレンが多い。未だに時々打ち上げられているので、まだいると思う。ソウギョはそのような事故はあまり起こさないが、段子川の流れ込みのところに結構いる。ソウギョは駿府城の堀にいる。

(委員)

- ・ 害はないと思うが、未だにいるかどうか気になる。

(委員)

- ・ まだいるようです。

(会長)

- ・ ありがとうございます。以上のような意見も踏まえて、平成 32 年度に向けての準備をお願いします。おそらく、実質的な議論は、来年度中ですね。今年度は原型を作る年で、来年度はそれを確認したり、実施可能なものにすると思うので、今年度は意見の収集の場をできるだけご検討ください。以上で、予定されていた議事は終了した。皆さんありがとうございます。では、進行を事務局にお返しします。

3 閉会

【事務局】

- ・ 一点、報告させていただきます。先日、佐々木崇輝前会長、静岡文化芸術大学名誉教授が、静岡県環境保全知事褒章を受賞され、6月15日に表彰式が行われた。環境保全知事褒章は、多年にわたり公害防止及び環境保全活動の推進に尽力し、その功績が顕著である個人及び団体を知事が表彰するもので、佐々木前会長は、佐鳴湖の水質改善や現行動計画の策定に尽力されました。
- ・ 浜松市環境部からお願いです。現在、ゴミの減量化を重要課題に位置づけている。家庭から排出されるゴミの量は、増加こそしていないが、横ばいの状況である。浜松市の豊かな環境を未来まで継承することや、将来的なゴミの処理経費削減のためにも、一人ひとりのゴミ減量やリサイクルの取組が必要と考えている。そこで、浜松市では、ゴミ減量を推進するため、生ゴミの水切りと雑紙の分別を、市民の方をお願いしている。本日、水切りプレスや雑がみ分別の減量グッズを持参したので、会議の終了時にお持ち帰りください。プレスの使い方はチラシを同封している。また、裏面がアンケートとなっているので、ご協力いただける方はご協力をお願いします。また、ゴミ減量については、浜松市ゴミ減量推進課の案内を同封しているので、そちらにお問い合わせください。
- ・ 会長、議事の進行をありがとうございました。委員の皆様には、長時間にわたり、ご協議いただき、ありがとうございました。本日ご協議いただいた結果を踏まえ、平成 32 年度以降の新しい計画に向けて検討する課題も多くなる。今後も、委員の皆様のご協力をよろしく願います。本日意見が出た専門委員会での意見の報告や、上流地域への意識啓発等も合わせて行ってまいりたい。以上を持ちまして、第 7 回佐鳴湖地域協議会を閉会いたします。

以上